

第 1 学年 国語科学習指導案

1組	児童	男11名	女12名	計23名
	指導者	教諭 小原 純子		
2組	児童	男12名	女11名	計23名
	指導者	教諭 門屋 まゆみ		

- 1 単元名 順序に気をつけて読もう
 教材名 「じどう車くらべ」(光村 こくご 1年)

2 単元について

(1) 児童観

児童は、1学期の「順序よく読もう」(中核教材「いろいろなくちばし」)の単元で、「問い」「答え」「説明」という初歩的な説明文の構成を学び、その構成を活かして調べたことを紹介文に書く活動を行った。小学校に入学して間もない子どもたちにとって、視点を持って読んだり調べたりすることは新鮮で、意欲的に学習することができた。また、新たに知ったことを「鳥のくちばし図鑑」という形で保護者に伝え、評価をもらったことは自信にもつながった。

読むことに関しては、段落は意味を持ったまとまりであることや、問いの文と説明の文では文末表現に違いがあることなどをほとんどの児童が理解できている。ひらがなの習得や主述の照応した文を書くことに課題がある児童が数名見られ、個別指導が必要である。

本単元を実施するに当たり、以下の内容で事前テストを実施した。(学年平均)

事 項	正答率
① 書かれている内容の大体を捉える (何のことが書いてあるか)	94%
② 記述内容の読み取り (仕事に対するつくり2つを見つける)	40%
③ 段落の順序 (「話題提示」「説明の柱」「説明」の並べ替え)	70%
④ 説明の順序 (「しごと」「説明①」「説明②」の並べ替え)	15%

<①について> 「つくり」の理解が十分でない児童が見られた。言語の意味を押さえたい。内容の大体を捉える力は、ほぼ満足できる状態である。

<②について> 「そのために」の役割を押さえながら、仕事とつくりを関連づけて読み取らせる必要がある。

<③について> 「話題提示—説明の柱—説明」の型の有用性を捉えさせ、活用することによって定着を図りたい。

<④について> 書かれている内容を押さえて文と文のつながりを考えること、「説明の柱」に沿って説明がなされていることなどに気付かせながら読ませたい。

(2) 教材観

1・2年生の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。本単元においては、指導事項の「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」が中心になる。

「じどう車くらべ」(光村図書 1年上)は、「話題提示—説明の柱—説明」という構成を持つ。説明の柱二点は相互に関連性があり、「そのために」という接続語でつなげる形で説明がなされている。

(3) 指導観

「つかむ」「見通す」段階では、生活科の「学校探検」で2年生に案内してもらいながら特別教室を見学したこと、興味を持った教室について発表したことなどを想起させる。そして、特別教室についての説明文を書くという目的意識、来年度の1年生に向けて書くという相手意識を明確にし、単元全体の見通しを持たせたい。

「深める」段階では、「問い」の形式で書かれている視点に沿って教材文を読むことによって内容の大体を読み取らせたい。

「確かめる」段階では、教材文の段落構成に着目した読みを行い、説明文の型「話題提示—説明の柱—説明」を捉えさせる。これは、相手にある事柄を伝えるための最も基本的な型であり、活用する意義があることを押さえさせたい。そして、教材文の説明段落三つを比較し共通点を見つけることによって、説明の順序性を捉えさせたい。また、仕事に照応したつくりが紹介されていることを押さえ、活用場面での取材の視点へとつなげたい。

「活かす」段階では、これまで学習した型を活かして、「書くこと」のプロセスに沿って、説明文を書く活動を行う。原稿作りや取材の見通しを立てる場面では、友だちと話し合うことによって、自分の考えを深めたり協同で作り上げたりすることができるようにしたい。評価の場面では、相互評価や2年生からの評価を元に学びの成果を自覚させたい。

その他、以下の目的で並行読書を進めていく。

<乗り物の本>

車の仕事とつくりについての関心を深めるために、ブックトークで提示し自由読書を奨める。

<文章構成が同じ書かれ方をしている本>

「話題提示—説明の柱—説明」の型で書かれている本を、読み聞かせ紹介する。教材文と同じ型で書かれていることに気付かせ、その有用性を実感させたい。

【仮設に関わって】

手立て1 活用することを意識した単元計画の工夫

国語での学びを生活科と関わらせながら活かしていけるようにゴールを設定した。教材文をモデルとして、説明文の文章構成や事柄の順序に着目して読む活動を行う。読みの活動で得た型を活用して書く活動を行う。

手立て2 個の学びを深める授業展開の工夫

- ・目的意識や視点を持たせて、説明文の型や説明の順序を捉える読みを行わせる。
- ・「書くこと」のプロセスに沿って、活用する場面の活動を組み立てる。
- ・話し合いや対話を通して、個々の思考力を深めさせる。
- ・メタ認知ができるよう評価の視点と場を設定する。
- ・音読や視写を朝活動や家庭学習等にも取り入れ、「読む」「書く」技能の定着を図る。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・特別教室の役割とつくりや機能について新1年生に説明しようとする。
- ・自動車の仕事とそのつくりの関連性に関心を持って読もうとする。

【読むこと】

- ・事柄の順序を考えながら読むことができる。(イ)
- ・関連することばを押さえながら、内容の大体を読むことができる。(イ)
- ・語や文のまとまりや内容に注意して声に出して読むことができる。(ア)

【書くこと】

- ・取材の視点を持って書く事柄を集め、型に沿って説明文を書くことができる。(ア)

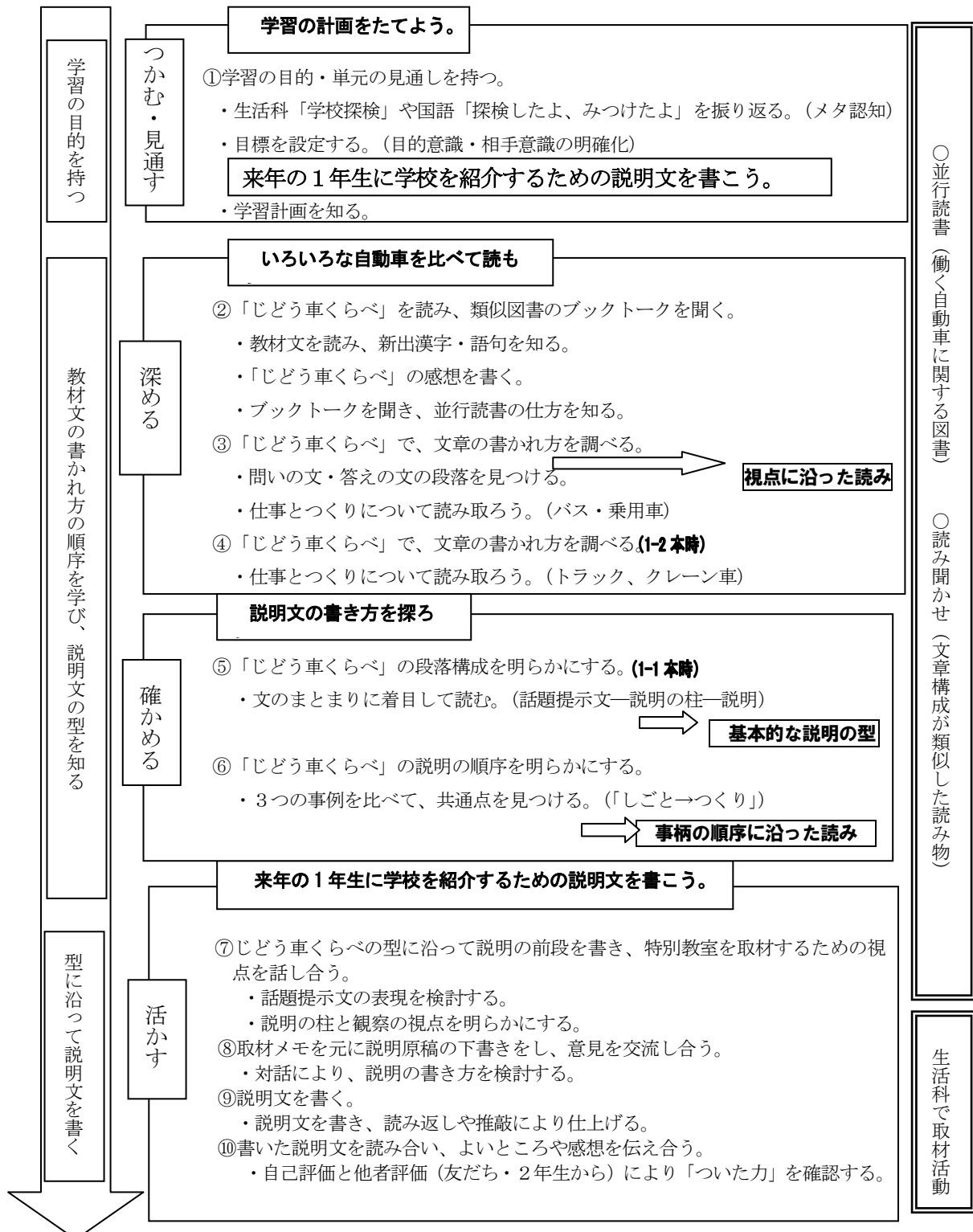
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付く。イ—(ウ)
- ・主語と述語が照応した簡潔な文を書くことができる。イ—(カ)

4 単元構想図

単元名 「順序に気をつけて読もう」

目標 書かれている事柄の順序に気をつけて読み、分かりやすく説明する文を書くことができる。



◎ゴールとする言語活動 「がっこうたんけん大さくせん」

- 目的 来年度の生活科「学校探検」で特別教室を紹介するための説明文を書く。
- 相手 来年度の新1年生
- 様式 鬼柳小学校の特別教室を紹介する説明文（写真入りリーフレットにし、探検地図に

5 単元の指導計画と評価規準 (全10時間)

次	時	学習活動	関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1 つかむ 2 見通す	1	○特別教室を紹介する説明文を書くことを目標に設定し、単元全体の見通しを持つ。	・単元を通じた学習に意欲を持とうとしている。			
3 深める	2	○「じどう車くらべ」を読み、初発の感想を話し合う。 ○新出語句を学ぶ。 ○ブックトーク（関連図書）を聞く。	・自動車の仕事の役割とそのつくりの関係性に関心を持つようとしている。 ・図書資料を活用しようとしている。		・語のまとまりに気を付けて音読している。(ア) ・自動車の仕事とつくりの関係性について自分の知識や経験と結び付けて、書いてあることの大体をとらえている。(オ)	・新出語句を正しく読んだり書いたりしている。
	3	○「じどう車くらべ」の段落と読みの視点を捉える。 ○バスや乗用車について仕事とつくりを照応させて読む。	・これまでの学習経験を活かし、段落構成を考えようとしている。		・視点をもって読み、文章中の大事な言葉を書き抜いている。(イ・エ)	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解している。 ・接続する言葉の意味と使い方を理解している。
	4	○トラックやクレーン車について、仕事とつくりを照応させて読む。			・視点をもって読み、文章中の大事な言葉を書き抜いている。(イ・エ)	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解している。 ・接続する言葉の意味と使い方を理解している。
4 確かめる	5	○「じどう車くらべ」の文章構成を分析する。			・段落の順序性に気付き、説明文の基本的な型を理解している。(イ)	
	6 1-2 本時	○「じどう車くらべ」の3つの事例を比べて、説明の順序の共通点を見つける。			・読みの視点にあわせて順序よく書かれていることに気付いている。(イ)	
5 活かす	7 1-1 本時	○型に沿って説明の前段を書き、特別教室を取材するための視点を話し合う。		・説明の柱に合わせて、特別教室を取材するための視点を持っている。(ア)	・「話題提示—説明の柱」の様式に沿って書いている。(イ)	
	8	○取材メモを元に、説明原稿の下書きをし、交流し合う。		・語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書いている。(ウ)		
	9	○説明文を書く。		・文章を読み返し、間違いなどに気付き、正している。(エ)		・主語と述語が照合した簡潔な文を書いている。
	10	○書いたものを交流し合う。 ○本単元でついた力について確認し合う。	・友達の説明文に興味を持って読もうとしている。 ・単元の学習でついた力を確認し、次に活かそうとしている。	・書いたものを読み合い、感想を伝え合っている。(オ)		

6 本時の指導 【6 / 10時 1年2組】

(1)目標

「じどう車くらべ」の3つの説明の事例を比べて読む学習を通して、読みの視点に合わせて順序よく書かれていることに気付くことができる。

(2)指導にあたって

本時のねらいは、「じどう車くらべ」を順序に気を付けて読み、3つの説明の事例の共通点をまとめることで、説明が読みの視点に合わせて順序よく書かれていることを理解し、学校探検で使う説明文づくりにつなげることである。

本時の指導の仮説との関わりは以下の通りである。

手だて1 活用することを意識した単元計画の工夫

- ・「じどう車くらべ」の説明の順序をまとめる学習を通して、説明部分の基本的な型を習得させ、書く活動につなげる。

手だて2 個の学びを深める授業展開の工夫

- ・「つかむ」において、来年の1年生のために特別教室を紹介するための説明文を書くという目的を確認する。
- ・文の比較を一文ずつ行いその都度共通点をまとめる学習を通して、次の文の比較の手だてとする。

(3)本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準 評価の観点	具体的評価規準		努力を要する児童への手立て
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	
事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことができる。 (読むことイ)	説明が読みの視点に合わせて順序よく書かれていることを理解し、自分の言葉でまとめている。	説明が読みの視点に合わせて順序よく書かれていることが分かり、適切な言葉でまとめている。	拡大したワークシートや字体を変えたヒントカードを用意する。

(4)展開

段階	学習活動と児童の反応（・）	支援（○）と評価（□）
つかむ 5分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・来年の1年生に、学校探検で特別教室のことを教えてあげるための説明文を書く。 ○前時の学習を想起し、本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の目的意識をはっきり持たせる。 ○よい説明文の条件（相手に伝えたいことがしっかり伝わる文）を話し合うことで本時の学習内容につなげる。 ○掲示を使って、前時の学習では全文を読み、分かりやすい説明文のつくり（「話題提示→説明の柱→説明」）をまとめたことを想起させる。 ○本時は、「説明」部分の分かりやすい書き方について学習することを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 分かりやすい説明の書き方を見つけよう。 </div>	
深める 30分	<p>2 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バスや乗用車の説明の順序を正しく並び替える。 ○学習の見通しを持つ。 <p>3 一人学び・学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一文ずつ比べて、同じ言葉や似ている表現を見つけ、丸で囲む。 <ul style="list-style-type: none"> ・1文目…「～は、～を～仕事をしています。」 ・2文目…「そのために」 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明の順序を正しく並び替えることによって、説明が3文で構成されていることを確認するとともに、説明の順序に着目させる。 ○三つの説明を比べて、同じ言葉や似ている表現を見つけることによって、説明の順序と分かりやすい書き方を探ることを確認する。 ○一文ずつを並べて比較しやすい形式でワークシートを提示する。 ○拡大したワークシートや字体を変えたヒントカードを用意し、苦手意識の強い児童への支援の手だてとする。

	<p>「つくってあります」と「なっています」 ・ 3文目…「あります」と「なっています」</p> <p>○それぞれの文の書かれていることを考える。 ・ 1文目…仕事 ・ 2文目…つくり① ・ 3文目…つくり②</p> <p>○「仕事→つくり」の順序に書かれている理由を 考える。</p>	<p><input type="checkbox"/>同じ言葉や似ている表現を見つけることができた か。(ワークシート)</p> <p>○それぞれの文の共通点を元に、書かれている事柄を 整理させる。 <input type="checkbox"/>書かれている事柄の順序を理解できたか。 (発言・ワークシート)</p> <p>○教材文全文に戻って考えさせる。 ○「説明の柱」の文を音読し、読みの視点に合わせた 事柄の順序になっていることに気付かせる。 ○つくりが仕事に照応していることを押さえる。</p>
<p>ま と め る 10 分</p>	<p>4 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>分かりやすい説明の書き方 説明の柱の順番に書く 「仕事→そのためのつくり」</p> </div> <p>5 次時の確認をする。</p>	<p><input type="checkbox"/>説明が読みの視点に合わせた順番で書かれているこ とを理解できたか。(ワークシート)</p> <p>○本時の学習を生かして、特別教室の説明を書くこと ができることに気付かせる。</p> <p>○次時は、これまでの学習を使って、説明文の前段を 書くことを伝える。</p>

(5) 板書計画

まとめ

わかりやすいせつめいの
かきかた

せつめいのはしらの
じゅんばんに

かく

しごと

↓

そのための
つくり

つくり

～あります
～ついています

つくり

そのために
～つくってあります。
～なっています。

しごと

は、
しごとをしています。

◎せつめいのはしら
「どなしごとをしていますか。」
「そのために、どんなつくりになっていますか。」

かだい
わかりやすいせつめいの
かきかたをみつけよう

6 本時の指導 【 7 / 10時 1年1組 】

(1) 目標

- ・特別教室についての説明文の「話題提示—説明の柱」の部分を書くことができる。
- ・特別教室を取材するための視点について考えることができる。

(2) 指導にあたって

本時は、これまでに読み取ってきた説明の型を活用し、特別教室の説明文を書く準備をする時間に当たる。新1年生に特別教室のことを教えてあげるには、どのような表現で書くのか、どのような視点を持って取材すればよいのかについて、具体的に考える活動を行う。

「話題提示—説明の柱」の文章表現については、教材文を参考に考えさせ、自分はどの書き方を使うかを選択させたい。

次に、取材活動での視点を持たせる場面は、教材文の「しごと」「つくり」の記述を振り返らせ、教室の役割と関連性（特徴）のあるものを調べる必要性に気付かせる。

本時の指導の仮説との関わりは以下の通りである。

手立て1 活用することを意識した単元計画の工夫

- ・教材文の学習から得た説明文の型を活用する。

手立て2 個の学びを深める授業展開の工夫

- ・学級で話し合うことにより、文章表現の拡充を図り、自分で選択して書かせる。
- ・取材の視点については、同じ特別教室を取材する同士が考えを出し合うことによって、確かめたり高めたりすることができるようにする。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		努力を要する児童への手立て
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	
特別教室についての説明文の「話題提示—説明の柱」の部分を書くことができる。（読むことイ）	「話題提示—説明の柱」を示された様式以外の書き方でも書いている。	「話題提示—説明の柱」を様式に沿って書いている。	入れ替える言葉カードを示して、教材文の書き換えができるようにする。
取材の視点を持つことができる。（書くことア）	説明の柱に合わせて、特別教室を取材するための視点を複数持っている。	説明の柱に合わせて、特別教室を取材するための視点を持っている。	具体的な言語や特別教室の写真を示し、選択できるようにする。

(4) 展開

段階	学習活動と児童の反応（・）	支援（○）と評価（□）
つかむ	1. 前時を振り返る。 2. 学習課題を確認する。	○「話題提示—説明の柱—説明」の型を確認する。 ○学習計画表で、本時の学習課題とその目的を確かめる。
3分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> とくべつきょうしつを しょうかいする せつめいぶんをかくための じゅんぴをしよう。 </div>	

<p>深める</p> <p>39分</p>	<p>3. 学習の見通しを持つ。</p> <p>4. 教材文を音読する。</p> <p>5. 「話題提示」の表現について話し合い書く。</p> <p>6. 「説明の柱」の書き方を考えて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱①の語彙 役目、役割、使い方、どんなことをする教室等 ・柱②の語彙 つくり、しくみ、どんなもの、どんな様子等 <p>7. 説明の段落を書くための取材の視点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割と関連のあるもの <p>8. 分かりやすく伝えるための条件を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようすを表わす言葉 ・～ように 	<p>○中核教材の型を元に説明文を作っていくことを伝える。</p> <p>○教材文の前段の部分を一齐音読し、イメージ化を図る。</p> <p>○目的・相手を想起させ、中核教材文を元に使用する語句を考えさせる。</p> <p>□話題提示文を書くことができたか。(ワークシート)</p> <p>○「じどう車くらべ」の場合と同様に、柱になる言葉2つを考えさせる。</p> <p>柱①特別教室の使用目的に関することを想起させる。</p> <p>柱②教室の特徴的な様子に関することを想起させる。</p> <p>○柱の語彙を使って2段落目を書かせる。</p> <p>条件・「それぞれの教室は、」で1文目を始めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そのために」で2文目を始めること <p>□説明の柱2つを1文ずつで書くことができたか。</p> <p>○教材文を元に、使用目的に関連ある特徴が説明として取り上げられていることを確認させ、図を示す。</p> <p>□説明の柱に合わせて、特別教室を取材するための視点を持つことができたか。(ワークシート)</p> <p>○教材文には、様子を表わす言葉が使われていることを取り上げ、グループ同士で観察の見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子(大きさ、形等)や数などの情報があること ・「～ように」の表現で意義づけや解説があること
<p>まとめる</p> <p>3分</p>	<p>9. 次時の確認をする。</p>	<p>○特別教室の取材は、生活科で行うことを伝える。</p> <p>○取材メモは、個々に自分なりの視点で記入することを確認する。</p>

(5) 板書計画

わだいの

①わだいの はしらは かいしてみよう。

②どこに めをつけて しらべるといいか。

とくべつきょうしつを しょうかいするせつめいぶんをかいたための じゅんびをしよう。

かだい

せつめいの はしらは

どんな ことを おしえて くれるのかな?

おへやの中はどうなっているのかな?

はしら②

はしら①

もの ← かんけいある → やくめ